

終末期がん患者が希望する療養の場で過ごすための
準備を促すパンフレットの開発
～治療中からのアドバンスケアプランニングと早め
の準備が在宅医療へのスムーズな移行の鍵～

永寿総合病院

がん診療支援・緩和ケアセンター

廣橋 猛

1. 本研究の要旨

終末期がん患者に対する在宅医療の必要性・需要は増すばかりである。しかし、一方で、在宅医療の立場から考えるに、「がん治療を担うがん診療連携拠点病院等からの紹介が遅い」、「在宅医療で関われる期間が短い」、「結果的に間に合わない事例も多い」など、紹介や連携のタイミングについてももう少し工夫できないか、という声が多いこともまた事実である。

化学療法や新規免疫療法など抗がん治療の延長も要因としてあると思われるが、これは医学の発展、ならびにがん治療を望む患者家族のニーズによるところも大きく、在宅医療の立場としては、そのような時代背景に即して、必要時に迅速に受け入れできる体制をとらなければならない。

昨今、アドバンスケアプランニングという関わりの重要性が指摘されるようになった。これは、「もし〜の状態になったら、どのように過ごしたいか?」という事前から継続的に関わる意思決定支援であり、がん診療連携拠点病院等では抗がん治療終了時に備えて、事前の準備を促す活動が行われている。すなわち、「もし抗がん治療ができなくなったら、どこでどのように過ごしたいか?最期はどのように迎えたいか?」という相談を行っていく試みである。状態が悪化されてから在宅医療や緩和ケア病棟（終末期入院）の準備を説明されるのと比べ、事前にイメージできている方が、在宅医療も適切な時期に開始できる可能性が高いだろう。

永寿総合病院がん診療支援・緩和ケアセンターは、緩和ケア病棟ならびに、早期からかかわれる緩和ケア外来の機能を有し、また在宅医療を要する患者に対し、迅速かつ切れ目のない連携を行っている。在宅患者が必要時に必ず入院できる体制も構築されている。在宅で過ごせる患者は在宅で、最期に入院が必要な患者は病院で、いずれも希望の療養の場で過ごして看取っている。周辺のがん診療連携拠点病院等から、年間約 1000 名の受診相談があり、外来～在宅～病院の切れ目のない連携体制に対する需要の高まりを感じている。

本研究の目的は、がん診療連携拠点病院等で抗がん治療中（主に根治不能な転移再発癌で化学療法や放射線治療を行っている状況をイメージ）、もしくはがん治療を終了しようとしている、まだ比較のお元気な時期の患者に対して、将来の準備をすることの大切さを説明し、今後の流れについてイメージしていただくためのパンフレットを作製。パンフレットを永寿総合病院に患者を多く紹介される拠点病院等に配布し、がん治療や地域連携・緩和ケアに関わる医師・看護師・医療相談員に、患者家族への説明で使用してもらい、その有効性や問題点を明らかにすることである。

2. 経過

2016年10月～2017年3月まで、複数のがん診療連携拠点病院等や緩和ケア病棟の地域連携に関わる医師・看護師・相談員らと情報交換の場を持ち、パンフレットに盛り込むべき内容を議論した。その結果、下記内容をパンフレットに盛り込むことになった。

- ・抗がん治療が終了したら、どのように過ごしたいか？
- ・今後、どのようなことに心配ですか？
- ・終末期がん患者の苦痛は必ず緩和できる（緩和ケアの重要性）
- ・拠点病院の役割（終末期の入院が難しい可能性）
- ・在宅医療で受けられる支援について、在宅看取りの可能性について
- ・介護保険申請は早めしておくべき
- ・がん患者のADLは最期に急激に悪化する（事前準備の重要性）
- ・永寿総合病院緩和ケア外来（がん治療中から通院可）について
- ・バックベッドを決めておくことの重要性について
- ・永寿総合病院緩和ケア病棟の紹介（緊急対応可）

これらを踏まえ、2017年4月～6月に簡易版のパンフレットを作成し、永寿総合病院を含めた3施設で実際に使用してもらった。終了時に質問紙を用いて医療者の感想を集約し、合計で8名からの感想を受け取ることができた。また、並行してホームページ上にてパンフレットのデータを公開し（現在は閉鎖）、感想を集めた。それらの結果は以下のようになった。

○パンフレットの有用性

非常にある6名　まずまずある2名　あまりない0名　全くない0名

○良かった点

- ・暖かい配色や見やすいレイアウト
- ・病院だけでなく、在宅での緩和ケアについても不公平なく分かる内容
- ・早めの準備の必要性が分かる内容
- ・パンフレットを見せながら説明する方が伝わりやすい

○改善点

- ・受け取る患者の精神的負担を減らせるよう工夫を要する
- ・患者に渡す際の医療者側のコミュニケーションに配慮が求められる
- ・できるだけ文字だけでなく、絵や表を増やす方が見やすい

○その他の感想

- ・がん治療医にも見てもらいたい

この結果を踏まえ、2017年7月のがん専門病院の緩和ケアや地域医療連携に携わる医療

者に意見を聞き、以下の点を改訂すべき点としてまとめた。

- ・受け取る患者の精神的負担を可能な限り減らす表記にする
- ・絵や表を増やす工夫をする
- ・がん治療医と緩和ケア医、もしくはがん治療医と在宅医が並行して診ていくこと、すなわち二人主治医制について、分かってもらえるような記載を追加する

これらを踏まえ、2017年8月にパンフレットの改訂を行った。パンフレットは完成版として、永寿総合病院がん診療支援・緩和ケアセンターに多く紹介のあるがん診療連携拠点病院等20施設に配布できるよう印刷。これから、患者家族に対する説明で使用してもらう。

3. 本研究の今後、ならびに発表の予定

がん治療を受ける根治不能の患者に対し、将来の過ごし方について、パンフレットをきっかけに考えてもらうことで、様々な準備を早めに行うことができ、結果的に在宅をはじめとした患者が希望する療養の場で過ごす可能性が広がる。それにより、在宅医療への紹介時期が早まり、紹介件数も増えるなどの効果が期待される。

がん診療連携拠点病院等の医療者に対しても、パンフレットを用いてもらい、関わった患者が希望する療養ができる成功体験を得ることで、在宅医療への紹介において、事前の準備が重要であるとの認識を持ってもらうきっかけになる。

これらの結果をまとめた上で、終了後、日本在宅医学会、日本緩和医療学会にて発表、ならびに論文化する計画である。また、本研究で得られた知見、ならびに作成されたパンフレットを継続的に日本中で使用できるよう、ホームページに公開し、誰でもダウンロードして印刷できるようにする予定である。

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

※参考資料（改訂前のパンフレット案）



安心して 過ごすために必要な 緩和ケアの準備

～永寿総合病院 緩和ケア診療のご紹介～

電車をご利用の場合

- JR各線 「上野駅、浅草口」 徒歩7分
- 地下鉄日比谷線 「上野駅、3番出口」 徒歩5分
- 地下鉄銀座線 「上野駅、3番出口」 徒歩5分
- 地下鉄有楽町線 「福町駅、1・2番出口」 徒歩6分
- 都営大江戸線・つくばエクスプレス 「新御徒町駅、A1出口」 徒歩6分

バスをご利用の場合

- 南めぐり人2 「永寿総合病院」下車 徒歩2分
- 東西めぐり人33 「永寿総合病院東」下車 徒歩1分
- 都バス 上23系統、上45系統、草39系統 「下谷神社前」下車 徒歩6分
- 都バス 都02系統 「東上野一丁目」下車 徒歩6分

公益財団法人ライフ・エクステンション研究所 附属
永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター


〒110-8645 東京都台東区東上野2丁目23番16号
TEL 03-3833-8381(代) FAX 03-3831-9488




医師から

「緩和ケアを探しておいた方が良い」
「これからは緩和ケアですね」


と言われたのだけど、
緩和ケアって何ですか？



緩和ケアは
**「患者の辛さを和らげ、
より良い生活をするための
治療」**
です。



緩和ケアは、まだ早くないですか？
まだ、がん治療しているのだけど、
もう緩和ケアは必要ですか？



緩和ケアは辛さを緩和する治療であり、がん治療とも並行して行われます。がん治療の病院でも緩和ケアチームを通じて相談することができますし、緩和ケアを専門的に受けられる他施設を探されてもよいでしょう。辛さの緩和だけでなく、がん治療や将来の過ごし方について、いろいろな相談をすることができます。

ただ、早めに将来の準備をしておいた方がよいには理由があります。緩和ケアを専門的に受けられる施設は多くなく、いざ必要となったときに予約待ちが長く、すぐに受診できない可能性があります。がん治療が最善の結果を生むことを期待しつつ、うまくいかなかったときに困らないよう準備しておくことが、何よりの安心になるのではないのでしょうか。

「これから、どのようなことが心配ですか？」



病気が悪化したら痛みで困るのでしょうか？

適切な鎮痛薬を使用し、
緩和ケアを受けることで、痛みは緩和できます。



これから、どのようにになっていくのでしょうか？

緩和ケアは辛さを緩和する治療であり、がん治療とも並行して行われます。がん治療の病院でも緩和ケアチームを通じて相談することができます。緩和ケアを専門的に受けられる施設を探されてもよいでしょう。辛さの緩和だけでなく、がん治療や将来の過ごし方について、いろいろな相談をすることができます。

ただ、早めに将来の準備をしておいた方がよいには理由があります。緩和ケアを専門的に受けられる施設は多くなく、いざ必要となったときに予約待ちが長く、すぐに受診できない可能性があります。がん治療が最善の結果を生むことを期待しつつ、うまくいかなかったときに困らないよう準備をしておくことが、何よりの安心になるのではないのでしょうか。



できるだけ自宅で過ごせますか？



自宅で過ごすことは十分できます。

緩和ケアのスキルを持った在宅医や訪問看護師にみてもらいながら、もし希望されるなら最期まで自宅で過ごすこともできます。

ただ、在宅療養の途中で、苦痛症状の悪化や体力低下により、いずれ入院を望まれることもあるでしょうから、必要なときは速やかに入院して緩和ケアを受けられるよう、あらかじめ準備しておくことが大切です。



「永寿総合病院の緩和ケア診療」

当院は上野駅に近接した、区中央部医療圏の中核を担う400床の総合病院です。16床の緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチームといった専門的緩和ケアを受ける体制を構築し、台東区や周辺地域で緩和ケアを必要とする患者様を多く受け入れています。東京都がん診療連携拠点病院の指定を受け、内科や外科をはじめとした複数科による診療体制に加え、CTやMRIといった検査機器、24時間受け入れ可能な救急など、進行がん患者が安心して受診できる体制を兼ね備えています。

私たちは、緩和ケアを必要とする方が、安心して、苦痛なく、病院でも在宅でも望み場までごすための支援を目標に、日頃の診療にあたりております。ご不明、ご心配なことがありましたら、気軽にご相談いただければ幸いです。



がん診療連携
緩和ケアセンター長
廣橋 猛

緩和ケア受診の流れ

- 1 お電話にて「緩和ケアの受診をしたい」とお申し出ください。
電話番号：03-3833-8381（平日10時～16時）
- 2 折り返し緩和ケア担当者、お電話にて詳細を確認してまいります。
- 3 初診外来の予約をお取りし、受診していただきます。
- 4 初診外来の後、状況に応じて以下いずれかの流れとなります。

1. 緩和ケア外来通院

通院可能な場合は、定期的に再診外来を受診いただけます。外来では必要に応じて処方・検査・緊急対応・在宅医療相談なども行います。

2. 在宅医療を受ける

通院困難などで、在宅医療を受けられる場合、ご家族のみでも構わないので、定期的に（1～3か月おき）緩和ケア外来へお話し頂き、医療費のご様子を行います。在宅医と連携し、当院で緊急対応も致します。

3. 緩和ケア病棟への入院

なるべく早くの入院を希望される場合、明命会議にて優先順位が決まります。入院が可能になるまで、自宅または現在の入院施設にて待機をお願いします。

当院緩和ケア外来の特徴

- 1 緩和ケア科医師が担当し、患者様の苦痛緩和につとめます
- 2 前医から引き継いで、処方や検査など必要な診療を行うことができます（連携しながら、前医と並行して受診することもできます）
- 3 予約日以外でも、体調変化時などいつでも相談できます
- 4 緊急時は夜間や休日でも、救急外来を受診できます
- 5 他院での抗がん治療中でも、将来に向けて受診できます（他院での治療中は、当院での緊急対応や入院ができません）



当院緩和ケア病棟のご紹介

以下の状況の患者様が入院対象となります。

- ・強い苦痛症状の緩和を必要としている方
- ・寝られている時間が非常に短縮されている方

緩和ケア病棟の理念

1. がんによる苦痛など様々な身体症状・精神症状を和らげ、患者様だけでなくご家族も支援します。
2. 患者様が穏やかな心と体を感じるよう、ご本人やご家族の意思を尊重し、ご自分らしく過ごしていただくために、ご本人のペースを大切にしながらケアを多職種チームで提供します。

緩和ケア病棟の特徴

1. ご家族は退院時間前に別室がありません。患者様を支えるチームの大切な一員として、大切なひととの時間をゆっくりとお過ごしください。
2. 身体機能の低下が避けられない末期がんの患者様でも、少しでも身体を動かしたいという想いを実現するため、ご希望に応じてリハビリをすることができます。

緩和ケア病棟の医療費

緩和ケア病棟入院料は医療保険の対象となり、収入に応じた診療報酬の範囲で医療費自己負担が利用できます。病室は、普通ベッド代からのみ2床室が4室（3床）、普通ベッド代からのみA個室（23,760円/日）が2室、B個室（12,960円/日）が5室という設定です。ご希望や状況により、個室の利用をお願いすることがあります。



・詳細は当院ホームページから検索頂けます。 <http://www.eijuhp.com/>